べつかい 議会だより

第119号
2026年11月



「おしゃべりしたり笑ったりがなにより楽しみ」
地域サロン遊海（ゆかい）に集う皆さん

特集 決算審査をどう見た 議員の視点に注目… 2
行政業務 ＤＸで効率化へ！ …… 4
別海中央地区義務教育学校の開校に向けてとうべつ学園を視察… 5
視察報告（議員活性化等調査特別委員会・広聴小委員会）… 6
町の未来を動かす議会の決断…… 7
一般質問（田村・中村・伊勢・小椋・貞宗・横田・市川・宮越・吉田・髙橋の10議員）…… 8
議会アラカルト（ふるさと交流館・ＥＶバス試乗体験）…13
議会モニターに聞く……14
連載 「Let's go！ 議会！」＜第７回＞ ……15
シリーズ おじゃましま～す 自分たちの足は、自分たちで ……16

北海道別海町議会

令和７年度
各会計決算審査

効果　評価　課題
～決算審査をどう見た 議員の視点に注目！～

９月30日から２日間の日程で審査が行われ、令和７年度の収入財源や事業効果について検証しました。
一般会計、４つの特別会計、３つの企業会計合わせて８会計５２１億７７１６万円の審査をしました。
一般会計の収入額は４２７億８２４７万円で、前年度より５３億９１５１万円増額となっています。
一方、支出額は４２４億５１５８万円で、翌年度へ繰り越す財源を差し引き、３億２４１０万円の黒字決算となりました。

高齢者等バス・ハイヤー共通利用券交付事業

質疑　**利用実績と課題・改善点は。**

答弁

対象者別の実利用者数・利用率（中央・西・東の３地区）

対象者	区分	３地区合計
高齢者	実利用者数	547人
	利用率	64.0%
障がい者（児）	実利用者数	179人
	利用率	59.7%

所得制限の限度額が、設定から25年経過し実態に合わなくなっているため、限度額の在り方を再検討する。
また、利用券の紙配布により紛失・破損リスクや、追加交付に時間を要する問題があるため、リスク回避と迅速な交付を実現する電子チケットの導入を検討する。



担い手プロジェクト事業

質疑　**事業の効果や課題と改善点は。**

答弁

農業イベント17回の出展で237人と面談し、酪農体験では36人の旅費助成を行った結果、令和８年度研修生１組２名を確保した。
一方、出展１回当たりの成果向上が課題であるため、町と農協がペアで出役し、補助制度の紹介と酪農のリアルを組み合わせた相乗効果のあるＰＲを実施している。
また、移住後のギャップによるリタイアを防ぐため、移住前後のフォローを町・農協が連携して行っていく。



奨学資金等経費

質疑 **卒業後、定員が充足して、町内で就職できない場合はどのような対応をしているのか**

答弁 卒業後、本人に就労意思があるものの当該職種に公募がない場合、返還額を最大2分の1減免するとともに、利子を免除し、最長5年間の返還猶予期間を経て、最長10年間の分割返還を可能としている。

また、返還猶予および返還中に当該職種の公募があった場合、その旨を本人に伝え、積極的な受験を促している。

もし採用となった場合は、採用から就労義務期間が満了した時点で、すでに返還済みの金額を、本人に返還する。



地域おこし協力隊推進事業

質疑 **隊員が能力や意欲を発揮できる業務内容となっているか。**

答弁 募集の時に、「活動内容」を明確化した上で公募を行い、着任後に、本人と協議の上、業務内容を取り決めている。

その後、定期的な面談や活動内容の助言・見直しを行うなどのサポートをしている。

水産系副産物再資源化施設ホタテウロ処分事業

質疑 **令和7年度の処分量と、処分費用は。**

答弁 令和7年度の処分量は4178トンで、処分費用は1億4401万3866円。

議会からの意見

町民のお金、どう使う？病院経営・予算・寄付金の見える化

ー総括質疑の要約ー

◆指摘事項

①町立別海病院の経営改善について

令和7年度決算では、一般会計繰入金が前年度より約1億円増加し、12億6700万円となっている。

医療人材不足、特に常勤医の確保が深刻な課題であり、安定した地域医療を継続するため、経営強化プランの見直しを進め、必要な改定を実施し、町民に安定した医療を提供することが求められる。

②適切な事務処理の徹底について

令和7年度の一般会計不用額は8億4000万円で、前年度比約86.7%増となった。

4特別会計の不用額約2億3000万円と合わせると、約10億円に達する。

補正予算編成時のチェック体制を一層強化し、執行見通しを精査して、減額漏れのない適切な予算管理を徹底する必要がある。

◆創意工夫に関する事項

①ふるさと応援寄附金の見える化について

返礼品調達費やその他経費の割合、寄付金の具体的な充当事業などが決算資料では把握しにくい。寄付金の事業区分別金額、基金の充当事業、積立・取崩し・残高などを一覧化し、決算書や審査資料への掲載を通じて、使途と運営状況の透明性を高めることが求められる。

予算決算審査特別委員会

委員長　宮越正人・副委員長　髙橋眞結美

総務産業常任委員会の活動報告

委員長 今西 和雄　副委員長 宮越 正人　委員 戸田 憲悦・佐藤 初雄・松原 政勝・小椋 哲也・髙橋眞結美・市川 聖母

行政業務 DXで効率化へ！

専門人材の力で、より良い行政サービスを目指して

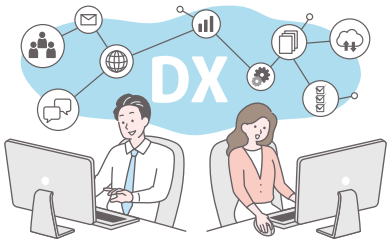
人口減少・職員不足といった将来的な課題に対応するため、行政業務の効率化・低コスト化を目指す「行政業務効率化推進事業」が始動しました。

専門人材派遣制度を活用し、業務改革・DX推進専門家を招き、業務改革を進めています。

今年度は、「土台づくり」とし、全課への業務ヒアリング、生成AIの活用検討および職員の意識醸成の取り組みを行います。

将来的には、定量的な業務量調査に基づいた、全庁的な業務改革を目指します。

委員会では、①人材の在任期間と成果の時間軸　②業務改善の進め方と病院・専門職を含む全庁展開　③町民サービスへの還元　④人材育成・組織定着について、議論しました。



水産加工業を 力強く支援！

水産物加工品流通強化事業で地域経済を活性化

町内の水産加工業者を支援するため、令和6年度から開始した町単独の補助事業が進行中です。

中国などによる輸入規制や、秋サケ漁獲量の減少、人手不足といった厳しい環境下にある水産加工業者が、前浜の水産物を加工し、地域経済に貢献しています。

本事業は、既存設備更新による生産性向上や品質維持、新規設備導入で新商品開発や自動化による効率化を支援するものです。

令和6年度には13件が採択され、補助額は9913万円に達しました。

令和7年度は14件で1億1209万円、令和8年度は調査時点で14件の申請があり、新商品開発が増加傾向にあります。



本事業で導入した急速冷凍機

ギカイの目

最終的には職員自らが継続的に改善できるしくみを

業務改革の推進は、住民サービスの質を落とさずに継続しながら、政策立案・運営の時間を生み出すことを、目的とするものです。

専門家の着任により、その実現を図る判断を、委員会として理解し評価します。

今年度の「土台づくり」の進捗と、職員自らが継続的に改善できる状態づくりを、注視していきます。

事業効果は大きいと評価

国・道の支援が手薄な水産加工業に対する本事業の意義と、継続性および補助率3分の2の妥当性、さらに、漁協を通じた中央要請との連携、そして、ふるさと納税に過度に依存しない加工体制づくりの必要性について、引き続き議論を深めていきます。

福祉文教常任委員会の活動報告

委員長 外山 浩司　副委員長 横田 保江　委員 中村 忠士・田村 秀男・貞宗 拓雄・伊勢　徹・吉田 和行

別海中央地区義務教育学校の開校に向けてとうべつ学園を視察

9年間の学びを支える学校づくり

7月3日、当別町立とうべつ学園を視察し、9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組みを学びました。

異学年交流や教員の乗り入れ授業を通じて、小学校から中学校への移行を支える工夫がなされています。

一方、6年生がリーダーシップを発揮する機会の確保や、教員間の情報共有など、9年間を同じ学校で過ごすからこそ、大切になる課題も伺いました。

別海中央地区の義務教育学校の開校に向け、こうした成果と課題を参考に、子どもの発達段階に応じた教育内容と運営体制、保護者や地域との合意形成も含め、今後の調査に生かします。



医療体制の充実に向けて

地域医療を支える診療所

尾岱沼・西春別駅前両診療所の経営状況の説明を受けました。

令和7年度の患者数は1万271人で、前年度より1552人減少。事業収支は約3675万円の赤字で、一般会計からの繰入額は約5417万円に増えています。

尾岱沼では患者数や医業収益の減少、西春別駅前では医業費用の増加がみられ、施設ごとの課題が見えました。

地域医療を維持するには、収支の改善と、住民が安心して受診できる体制の両立が必要です。

医師確保や病院と診療所の連携を含め、地域の実情に合った医療の在り方が問われています。



ギカイの目

施設と運営の両面を注視

視察の中で、学校と学童保育の一体化は、子どもが外へ出ずに移動できる点など、利点が大きいとの意見が出されました。

一方、迎えに来る保護者の確認など、運営上の配慮も必要です。施設の整備とともに、安全を守る体制が確保されるか、注視すべき点です。

受診のしやすさに目を向ける

西春別駅前診療所が予約優先に変わり、町民から戸惑いの声も聞きますが、急患の受け入れは継続するなど、臨機応変に対応しています。

また、内科医不足の中で同診療所の医師が週1回、別海病院で診療している取り組みを評価する声も上がりました。

地域医療を支える取り組みとともに、経営の仕組みや住民の受診のしやすさについて、引き続き注視していきます。

議会活性化等調査特別委員会 行政視察（9／15～17）

委員長　中村　忠士・副委員長　小椋　哲也

議会活性化等調査特別委員会では、第４期議会活性化計画策定に向け、調査を続けています。

今回の視察では、主に議員のなり手不足対策と政務活動費について調査するため、南幌町と訓子府町の議会を訪問してきました。

南幌町では、議員なり手対策として取り組んでいる「次世代育成研修」や、政務活動費の活用について学びました。



南幌町議会

訓子府町では、同じく議員なり手対策の「ぎかいいろは教室」の取り組みと、課題などを聞かせていただき、いろいろ学ぶことができました。



訓子府町議会

帰町後、早速視察内容を振り返り、学んできたことを整理して、別海町にふさわしい議員のなり手対策や、議会力・議員力の向上につながる「政務活動費」の在り方について、議論を続けているところです。

広聴小委員会　行政視察（7／14・15）

代表委員　小椋　哲也・副代表委員　横田　保江

当町議会は、広聴に特に力を入れるため、昨年から広聴小委員会を設けたところで、「町民が議員と気軽に話せる場のつくり方」と「聴いた声の生かし方」を学ぶことを目的に視察しました。

浦幌町では、図書館や公民館など人が集まる場所に、議員が普段着で出向き、来た方一人一人と話す「まちなかカフェDE議会」を長年続けています。出された意見は記録して委員会や一般質問につなげ、結果を議会だよりで周知していました。



芽室町では、20人の議会モニターや、はがきなどで意見を受け付ける「ホットボイス」など、声を受け取る仕組みが整っています。

寄せられた意見は、委員会別に整理し、連絡先のある方には回答し、結果をホームページで周知していました。



当町議会でも、地域めぐり懇談会や自治会との意見交換に加え、町民が気軽に話せる場を増やし、いただいた声を委員会につなぎ、結果をお伝えする流れをつくっていきます。

1億1440万円の補正予算！町の未来を動かす議会の決断

第3回定例会は、9月7日から11日までの5日間、開催されました。

補正予算は、予算決算審査特別委員会(宮越正人委員長)で慎重に審査され、本会議で可決されました。

一般会計1億370万円、介護保険特別会計1070万円、計1億1440万円の増額補正です。

主な新規・追加事業を抜粋して紹介します。

この他、人権擁護委員の推薦2件、教育委員の任命、工事請負契約2件、財産の取得、債権放棄、健全化比率および資金不足比率、専決処分3件など、計21件の議案を審議し、全会一致で可決されました。

9月定例会

ホタテ漁業緊急支援事業 1115万円 追加

放流数を4000万粒から5900万粒に増。

スポーツ団体等派遣費補助事業 400万円 追加

大会数・派遣人数は前年度並みだが、宿泊費・バス借上料の高騰で、1件当たりの補助額が前年度比40％増となり、400万円不足する見込み。

言語聴覚士等専門支援事業 20万円 追加

相談日を2日増やし、8件を追加して計28件へ拡充。

麦類生産技術向上事業 106万円 新規

小麦生産者4戸、5310アールが対象。10アール当たり2千円を交付し、施肥・防除体系の改善を支援する。

町内では初実施。

財産の取得

酪農工場金属検出機・ウェイトチェッカー一式 2321万円



ウェイトチェッカー

金属探知機

意見書

6件の意見書から抜粋。

【委員会提出意見書】

福祉文教常任委員長　外山　浩司

地域公共交通の維持に向けた法整備及び財政処置の拡充を求める意見書を採択。

【議員提出意見書】

提出者　今西　和雄

賛成者　戸田　憲悦

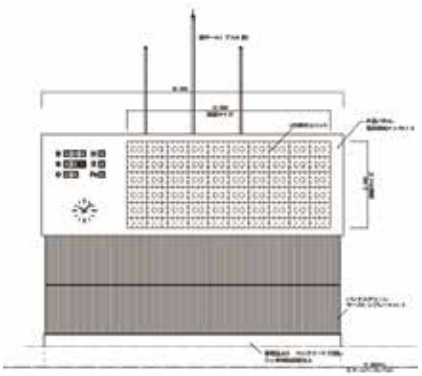
他　6人

自衛隊員の処遇及び退職自衛官の再就職促進に関する意見書を採択。

10月臨時会

町営野球場電光スコアボード整備工事3億4430万円の締結を含む5件の議案。

スクールバス購入費2600万円を含む3060万円を増額し、総額347億4650万円の一般会計補正予算案、専決処分1件を原案どおり全会一致で可決しました。



質問 本町の財政運営は今まさに重大な転換期



田村秀男（たむらひでお）議員

質問 **令和9年度の予算編成方針は。**

答弁 人口増加や地域経済の好循環、住民福祉の向上など明確なリターンを目的とした戦略的投資は、引き続き積極的に推進する。

既存の事務事業などの見直しは、行政内部の事務の効率化・改善を中心に、取り組みを進めている。

質問 **中央・西・東の3拠点方式による公共施設などの、老朽化するインフラや施設の更新・維持管理コストに対し、選択と集中で長期的視点で身の丈に合ったまちづくりを進めるのか。**

次世代にツケを回さない聖域なき改革の、勇気はあるか。

答弁 議員ご指摘のとおり、利用実態に基づく判断の考え方を、第8次総合計画および行財政改革の中に、検討の仕組みとして、明確に位置付ける。改革の勇気はある。

質問 **公共施設跡地を町民や移住者、二地域居住者などに分譲、無償貸付する考え方を持っているか。**

答弁 責任を持って、長く使っていけるかなどを十分吟味して、判断の基準にする。

質問 **ふるさと応援基金は、残高をどの程度確保するのか。**

答弁 200億円程度を確保できれば、経済をはじめとする情勢の急変による事業執行の影響に対しても、一定の対応力が生まれるものと考えている。

質問 本町における脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて



中村忠士（なかむらただし）議員

質問 **本町は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2030年までに二酸化炭素排出量を51%削減するとしている。**

町の計画では、令和7年度から12年度までの5年間で、3137ﾄﾝの二酸化炭素を減らすとしているが、エネルギー使用量そのものによる削減量はどのくらいか。

答弁 エネルギー使用量そのものによる削減量については、計画を持ち合わせていない。

質問 **町が公表している計画は、役場関係の事務事業に限定しての削減計画だ。**

農林水産業を含め、町全体の脱炭素についてはどう考えているか。

答弁 第8次別海町総合計画の策定時期に合わせて、策定することができないか、情報収集に取り組んでいる。

質問 **ゼロカーボンを担当する地域おこし協力隊がおり、調査期間は令和7年度までとなっていた。**

活動報告が公表される予定はあるか。

答弁 令和9年度中には、活動成果を公表できるようにしたい。

質問 **町が公表している実行計画と結果報告は、エネルギー使用量の単位が統一されていない。**

町民が比較・検討できるよう改善する考えはないか。

答弁 今後、速やかに記載内容について修正していく。

詳細はこちらからご覧になれます

議員10人による一般質問

質問 交通空白解消の担い手となる公共ライドシェアの活用について



伊勢（いせ） 徹（とおる）議員

質問 **尾岱沼地区で住民主体の公共ライドシェアが始まり、その役割や価値をどのように認識しているか。**

答弁 地域の交通問題を、住民自身が主体となって解決しようとする、意義深い取り組みであると認識している。

一方、運行にあっては、地域住民の継続的な協力が不可欠であり、既存の交通事業者との共存調整、例えば運行区域の設定など、解決すべき課題も多くあると認識している。

質問 **尾岱沼地区公共ライドシェアの活用方法はないか。**

答弁 現状は、運行区域内に限られた活動であるので、区域外への通院などは難しい。

質問 **運行範囲の拡大や利用対象の広がりについて、町としての見解は。**

答弁 運行範囲を超えた活用は、ライドシェアとしては困難な状況である。

質問 **デマンド交通として、路線バスと連結して活用できないか。**

答弁 運行区域の拡大は困難。別の手段方法による問題解決を検討していく。

質問 **バス・ハイヤー共通利用券の対象者を、再度検討する時期ではないか。**

答弁 交付に係る限度額の在り方について再検討が必要と考え、令和9年度中の策定を予定している地域公共交通計画の中で、地域公共交通の課題の一つとして検討する。

質問 算数セットや彫刻刀、家庭の負担は軽くなる？



小椋（おぐら）哲也（てつや）議員

質問 **小学校では算数セットや彫刻刀などの学用品や、授業で使う副教材を買う機会が多い。副教材費だけでも小学5年生の一例で、年間1万1千円になる。**

学用品は保護者が業者から直接買う品も多く、この負担をどう軽くするか伺う。

学年ごとの保護者負担を町は把握しているか。

学用品を学校でそろえて共用する考えはあるか。

答弁 負担額は十分に把握できていない。今年度中に各学校で負担状況を調査する。

共用できる品目から、来年度以降の整備を検討する。ハーモニカなど共用しにくい品も、調査の対象とする。

質問 **学校で共用しにくい学用品も含め、子ども・子育て応援基金で負担を軽くできないか。**

答弁 負担軽減は、基金の趣旨に沿う検討対象である。

教育委員会の調査と検討を経た予算要求を受け、基金活用も含め判断する。

教育長答弁は、負担軽減に異論はないとしつつ、教材を自分の持ち物として手元に置くことは、将来の学びにつながる。

町長答弁は、備品か個人の持ち物かにかかわらず、子育て世帯への支援として、予算を組んでいきたい。予算は確約できないが、できるだけつけるよう努力する。

質問 災害時における酪農用水の確保について



貞宗拓雄（さだむねたくお）議員

質問 **エンジンポンプの使用訓練は実施したか。**
また、具体的な取水、運搬および保管の方法、関係団体との協議の進捗（しんちょく）状況は。

答弁 令和7年11月19日に、各地域の代表者など24人が参加の上、自然水利を想定した取水訓練を実施した。
実際の運用については、河川から取水した水をタンクなどに受け、用意したトラックなどを用いて、各農家に配送する方法を想定している。
今回の訓練を通じて、課題が具体化されたことを踏まえ、現在も各農協などと情報共有を図りながら、協議を進めている。

質問 **町内で井戸を設置している農家は、23戸程度あるとのことだが、自家水源の整備について、町の考えは。**

答弁 農家個々の自助力を高める、有効な手段と認識している。
既存の補助制度の周知などについて、今後、農協とも連携しながら取り組んでいきたい。

質問 **地域の産業を守る観点から、災害時における酪農用水の確保に関する対応や、対策をまとめた酪農危機管理対策マニュアルなどの作成が必要と考えるが、町の考えは。**

答弁 マニュアル作成には調整が必要であり、防災対策は自助・共助・公助の連携で機能することから、農協と連携し、課題認識の整理や情報共有の仕組みを検討するなど、補完協力に取り組んでいく。

質問 高齢者RSウイルスワクチン接種費用助成実現について



横田保江（よこたやすえ）議員

質問 **高齢者や基礎疾患のある方がRSウイルスに感染すると、重症化して肺炎を併発し、持病が悪化するリスクが高く、インフルエンザに匹敵する大きな疾病負荷となる。**
回復後も、日常生活動作が低下し、健康寿命を縮める要因になる。
町として、高齢者におけるRSウイルス感染症の重症化リスクや、健康影響の重大性をどのように認識しているか。
3学会（日本感染症学会・日本呼吸器学会・日本ワクチン学会）の知見や、厚生労働省の公的文書に基づいた見解を。

答弁 厚生労働省の審議会でも、公衆衛生上の重大課題とされており、3学会の提言によると、60歳以上で毎年約70万人が感染発症し、約6万3千人が入院、そのうち院内で4500人が亡くなっている。
町としても、高齢者を守ることを重要課題と認識している。

質問 **町外接種は、高額な費用や町外での受診が、大きな障壁となる。本町独自の接種体制の構築は可能か。**
また、高齢者RSウイルスワクチンの費用助成を、早急に創設する考えはあるか。

答弁 令和9年度からの町内での接種実施に向けて、さらなる調整を進める。
また、高齢者の健康を守ることを優先し、費用助成についても、令和9年度からの実施を予定している。

詳細はこちらからご覧になれます

議員10人による一般質問

質問 町民が親しみやすく安心できる役場へ



いちかわ まりあ
市川聖母議員

質問 **窓口に迷わずたどり着け、安心して声をかけられる環境か、どう受け止めているか。**

答弁 手続きによっては分かりにくい状況を認め、声をかけづらいとの受け止めを真摯に捉え、改善の余地があると認識している。

仕組みとして見直す。

質問 **職員の心がけだけに頼らず、話しかけやすい環境を、仕組みとして作る考えはあるか。**

答弁 心がけだけでは限界がある。

分かりやすい案内やカウンター・机の配置見直しなど、窓口の在り方を、構造的な観点から検討したい。

段階的に取り組む。

質問 **総合案内の位置や動線、案内表示を、来庁者を受け入れる仕組みとして見直す考えはあるか。**

答弁 案内表示や動線の見直しを、関係部署と連携して進めたい。

改修は費用や時間がかかるため、できることから段階的に行う。番号表示は検討中の一案だ。

質問 **町民が、安心して声をかけられる役場づくりについて、町長の考えは。**

答弁 職員の努力を、町民に届ける仕組みを整えることが必要と考える。

声をかけやすい環境は、町民サービスの向上につながる。

寄り添う役場づくりを進めたい。

質問 幹部職員の育成強化に向けた管理職手当の改正について



みやこしまさと
宮越正人議員

質問 **手当の改正を検討した経緯はあるか。**

なぜ据え置くと判断したか。

答弁 職務が増大する中、職責に見合った総合的処遇の観点から、検討すべき事項と認識していた。

しかし、町の財政状況や、コロナ禍など世情が一変した時期もあり、結果として長期間にわたる据え置きとなっている。

質問 **現在の部課長が退職後、町政を担う職員の育成は。**

また、管理職を目指す意欲と職責および処遇の均衡を、どのように捉えているか。

答弁 現在の部課長が培ってきた知識・経験・判断力などの継承は、町政の将来において重要課題と捉えている。

「別海町職員人材育成・確保基本方針」などを踏まえて対応していく。職責の重さと処遇の均衡は、欠くことはできないものと認識している。

質問 **管理職の育成強化を図る手立てとして、手当の改正は必要であり、町長の定める規則で実施できる。**

検討するとすれば、どの時点で判断することになるか。

答弁 昨今、情勢が大きく変わる中、住民サービスの量や質ともに増大しており、統括する管理職の職責も、度合いを増していると判断している。

改定を判断した場合は、令和9年度当初に、具体的方向性を示す。人材育成は、町政の重要課題であり、責任を持って取り組んでいく。

質問 放課後、どこで過ごす？ 中高生の居場所



吉田和行（よしだかずゆき）議員

質問 **中高生が料金や予約を要せず自由に立ち寄り、過ごし方を選べる場の必要性についての認識と、町内の確保状況を伺う。**

答弁 自由に過ごせる場所は、自己決定力・安心感・社会性・コミュニケーション能力を育てる上で重要である。

大半の社会教育施設は、使用中でなければ自由に利用でき、一定程度確保されている。

中高生の使用料免除を明記した規定はないが、子供会などの免除規定を準用し、中高生の使用も免除としている。

質問 **青少年プラザと図書館の位置付け、中高生の利用実態を伺う。**

答弁 青少年プラザやみなくるには、予約不要のフリースペースがあり、みなくるのホワイエは放課後や休日に多くの中高生が利用している。

図書館は自由に来館でき、ティーンズコーナーもある。申請・貸出履歴は把握済みだが、フリースペースは未把握である。

質問 **中高生が使いやすい運用と居場所の確保を伺う。**

答弁 青少年プラザの一部の部屋は、安全・施設管理上、大人の同伴が必要で、利用に制約がある。社会教育施設は、居場所づくりで当事者意識を高め、地域づくりにつなぐ役割が求められる。

今後、施設の役割を整理し、中高生を含む全世代が、気軽に立ち寄れる居場所として検討する。

質問 送迎が届かずデイサービスなどに通えない地域の解消は



髙橋眞結美（たかはしまゆみ）議員

質問 **送迎が届かないことを理由に、通所サービスを利用できない方がいるという認識はあるか。**

答弁 送迎経路の調整がつかない地域があることは認識している。

それにより、利用回数に制限が出ている方、待機の方がいることも把握している。

質問 **送迎の届かない空白地を、町として整理しているのか。**

答弁 現在、地域包括支援センターが開催している地域ケア会議で、通所事業所と意見を交わしながら、状況の聞き取りや図面上で整理している。

質問 **令和6年度の介護保険の改定で示された、事業所間の共同送迎について、障害福祉サービス事業所も加わった上での検討が必要と考えるが。**

答弁 共同送迎については、地域ケア会議ですでに議題に上げており、まずは介護事業所間での可能性を探っている。

その上で必要があれば、障害福祉サービス事業者にも、会議に参加していただく。

質問 **送迎の空白がどこに生じても、対応できる仕組みを求める。町の役割は。**

答弁 事業所間での共同送迎は、町が主体的に調整役を担っていく。

策定中の地域公共交通計画との整合を取り、広い視野で施策を展開し取り進めたい。

ふるさと交流館 〈課題共有会議の一コマ〉

住民が望む姿に変身できるか？

パブリックコメントの内容に沿い、担当部から基本計画・基本設計（案）の説明を受け、全議員で質疑・意見を所管に述べました。

計画の概要

1. 既存建物を増改築し、温浴機能、飲食、物販および宿泊機能を持ち合わせた施設とする。令和12年度中の運用開始で調整している。事業費は、現時点で**約25億円**を見込む。
2. 岩盤浴やキッズスペース、ドミトリーを設ける。伴走型の官民連携で運営する。

質疑・意見の抜粋

1 建築費の財源は。
地域未来交付金、過疎対策事業債、ふるさと応援基金を活用する。

2 毎年１億円程度の赤字財源の手当は。
自前用意が原則、ふるさと応援基金の活用。

3 建築費が高騰するのでは。
来年度以降も建築単価は高騰する。30億円程度まで増える可能性あり。

自動運転ＥＶバス 試乗体験！

延べ311人の町民が試乗した、自動運転ＥＶバスを議員も体験してきました！未来の公共交通の体感を、各議員に突撃インタビュー！



ドライバー不足のなか、高齢者の足として外出意欲を促し、健康維持や介護予防にも、将来的には必要。

未来がもう走っている！運転する車から、乗せてもらう車へ！自動運転は移動の常識を変える！

マイクロバスでの巡回などやれることがあると思う。自動運転バスは、夢があるがコストがかかりすぎる。

追い越しの車が前に割り込んだ時に、急ブレーキがかかりびっくり！道路脇の旗やのぼりの揺れを感知して、ブレーキがかかることもあるそう。事前に知っていると心構えができると感じた。

今のレベルの車両の価格が高すぎる。ランニングコストやトラブルも考慮すると時期尚早では。

全面の窓が広く開放感があって安心する。車いす用のストッパーがあるといいなあ。

静かで滑らかな走行でした。安全性のさらなる検証が必要です。

子どもの時に見た未来予想図が、生きてるうちに体験できるなんて！

知る・考える・声を届ける

自動運転ＥＶバスの試乗をきっかけに、地域公共交通をまず**「知る」**。そして、暮らしに必要な移動について**「考える」**。町民の皆さまの気付きや意見を、これからの地域づくりに向けて**「声を届ける」**。議会は今後も動いていきます。

私たちが見た・感じた　別海町議会!!

議会モニターの皆さんに、各会議を傍聴してのご意見をお聞きしました。

一般質問検討会議

全議員が集まって、「どんな政策を実現したいか」を話し合い、外部の専門家（議会サポーター）からもアドバイスをもらいながら、より効果的な質問づくりを目指すための会議



グループの席替えを、定期的に行った方がよいように思います。
特定のグループからの意見が多く、他のグループは参加していない感がありました。
居眠りしている議員も見られて、議員としての姿勢が残念です。（Y氏）

一般質問



●●議員、▲▲議員の話し方は、ハキハキとしていて聞きやすい。
議会に対するワクワク感がなく、傍聴しようというモチベーションが湧かない。（S氏）



送迎が届かず、必要な通所サービスを利用できない方がいるという、地域の生活に直結する課題を取り上げており、重要なテーマだったと感じました。
特定地域への対応ではなく、町全体で課題解決を求めている点も、意義があると思いながら聞きました。
今回取り上げられた課題が、一時的な対応にとどまらず、実際に利用する方の生活のしやすさにつながる、具体的な取り組みへ発展していくことを期待したい。（N氏）



議員によっては、質問の意図が見えない部分もあったりするので、事前の検討会議でもんでいるとは思いますが、よりよい一般質問を期待したいです。
質問に対して用意した答弁を読むだけなら、文章を公開するだけでも同じだと思います。用意していた質問以外のことばかりしていたら、議事が進まないのもわかりますが、事前に質問されていないから答えられないではなく、もっと踏み込んだ質疑応答を期待したいです。（S氏）

お知らせ

話そう、聞こう、変えよう。－別海の明日を一緒に－

地域めぐり懇談会開催

11月24日㈫ 別海・25日㈬ 西春別駅前・尾岱沼

連載 第７回

町民の皆さんの声を一緒に届けませんか?!

Let's go! 議会！（レッツゴー！）

とはいえ、議会って難しいんじゃない？

前回の第６回では、「その“もっとこうなったらいいのに”を議会へ！」とお伝えしました。議員は、特別な人ではありません。でも、正直に言えば――「難しい」のも、また事実です。議会の「難しい」は、大きく３種類。あなたの歩みを止めているのは、どの「難しい」ですか？



議会の「難しい」は３種類

実体験に基づく「正直」な難易度をチェック！

①時間 ★★★★★

正直、ここが最大の壁！

両立の「難しい」

会議は平日の日中が中心。定例会の時期に限らず、議案の予習も復習も自宅で事前に準備が必要です。

また、任意ではありますが、休日のイベント来賓出席や、さまざまな団体との夜の親睦会などもあります。

疾病や育児、看護・介護など会議規則で欠席は認められていますが、**仕事や子育てで日程を調整することにジレンマを抱える**こともあります

②知識 ★★★★☆

支えがあります！

予算・決算、条例や事業の「難しい」

審査の対象は、予算・決算、条例改正や事業。

覚える量は確かに多い。

常に勉強！役場の部長クラスは、各課の内容まで理解していますが、議員は、何年もかけて学ぶわけにはいきません。

自ら勉強するのはもちろん、先輩議員に教わることもたくさん。今の別海町議会は、議員同士の交流が活発で、先輩は後輩にとても親切にしてくれます。

③技術 ★★★★☆

場数で伸びます！

質問力・調査力・伝える力の「難しい」

作文力は一般質問に。委員会や予算決算審査特別委員会では、**聞き出したい・確認したいことを聞く質問力**を。コミュニケーションのスキルは、**すべての場面で必要不可欠**です。

どれも「練習あるのみ」ではありますが、技術はある程度勉強すれば身につきます。質問のタネは、暮らしや仕事の中にあります。

毎日が勉強の積み重ね。最初から完璧な人なんて、いません。

これがホンネ！

１期生４年目 **市川聖母議員** に聞いてみました!!



Q 両立が大変なのに続けるのはなぜ？

A 時間の難しいは、常に課題です。大変でも続けるのは、やっぱり別海町の全町民の未来のためです。子どもたちだけのためじゃない。みんなの未来のためです。陰で文句を言う側にはなりたくなかった。家族に迷惑をかけた分、この町を変えたい。

シリーズ
おじゃましま～す

自分たちの足は、自分たちで
― 尾岱沼の住民が始めたライドシェア―
「一般社団法人尾岱沼Ｓｅｅｄｓ（シーズ）」



運行に使用している車両とメンバーの方々
（左）菅野望さん、稲葉一徹さん、鈴木翼さん、島崎哲也さん

今年４月、尾岱沼地区で住民による公共ライドシェアが始まりました。

講習を受けた地域の人が運転手となり、予約した利用者を有料で送迎する仕組みです。

運営するのは、地元の有志がつくった「一般社団法人尾岱沼Ｓｅｅｄｓ（シーズ）」。住民主体の公共ライドシェアとしては、釧路・根室管内で初めての取り組みです。

出発点は、免許を返納すると病院にも通えなくなる高齢者を、どう支えるかという心配でした。

中心メンバーは何年も前から方法を調べ、運輸局とも何度も相談を重ねてきました。

コロナ禍で一度は立ち止まったものの、活動を再開。

早く実現するには、自分たちで法人をつくるのがよいと考え、地域活動に携わってきた仲間たちで設立しました。

今年２月、町の地域公共交通会議で合意を得て、運行開始にこぎ着けました。

運転手は20人。「協力させて」と手を挙げた地域のお母さんたちが中心です。皆さん仕事との掛け持ちで、シフトを組むのは毎回ひと苦労。それぞれの空いた時間をやり繰りして、平日の運行を支えています。

商店の配達に頼っていた高齢の女性が、自分で店に出向き、品物を選べるようになりました。

一方で、今の運行区域は尾岱沼・春別・床丹・平成の４地区。別海市街地や別海病院への送迎はできません。

メンバーが望むのは、町内を自由に行き来できるようになること。休日の運行やバスとの接続にも、取り組みを広げたいと考えています。

代表理事の鈴木翼さんは、活動の出発点である高齢者の足を支える取り組みを、これからも続けていきたいと話します。



鈴木翼さん

令和８年第４回定例会は
12月７日(月)～12月11日(金)
を予定しています

別海町議会
YouTube チャンネル



一般質問の傍聴にきてみませんか？
一般質問日
12月８日(火) 予定
お待ちしていま～す!!

□令和８年11月１日発行／北海道別海町議会　□発行責任者／西原　浩　□編集／広報・広聴常任委員会
〒086-0205　北海道野付郡別海町別海常盤町280番地　TEL(0153)74-9854（直通）